



患者さんに喜ばれる 質の高い歯科技工士をめざす

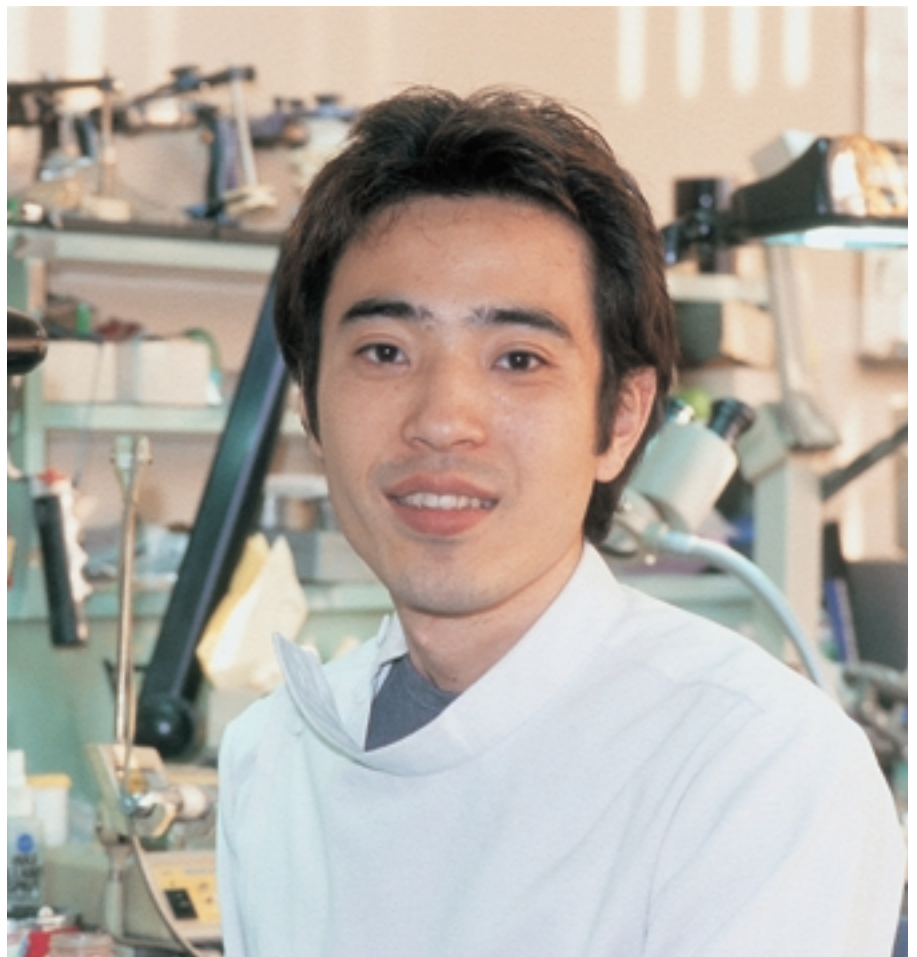
池谷 勇さん (東京・江戸川区)



アビリンピック授賞式（98年10月）



金賞を受賞した時の課題作を久しぶりにみる池谷さん（筑波大学附属聾学校で）



池谷勇さん（31歳）。1993年筑波大学附属聾学校高等部専攻科歯科技工科卒業。98年、第23回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）歯科技工部門で金賞受賞。現在、J・ユニットのメイン歯科技工士として活躍している



同僚の皆さん（右から堀越勇武さん、中里さん、池谷さん、長谷川亮さん）



池谷さんの働くJ・ユニット



J・ユニット中里義幸代表。「私がこの業界に入った時の指導者が聴覚障害者でした。何の違和感もなくやっています」

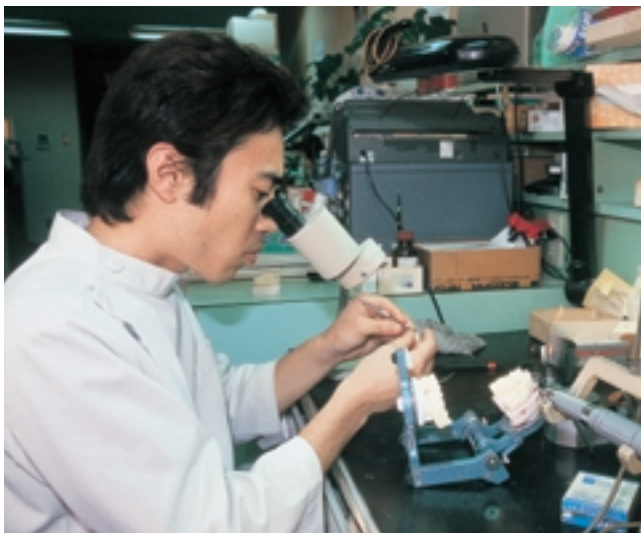
現在、日本国内で歯科技工士免許を取得している聴覚障害者が約一、〇〇〇人、下肢障害者等が約五〇〇人程度いると推定されている。歯科技工が国内アビリンピック大会の競技種目となったのは、一九九八年十月に開催された第二十三回大会から。その大会で、歯科技工部門第一号の金賞を獲得したのが、聴覚に障害がある池谷勇さん（当時二七歳）だった。

池谷さんは、静岡県島田市で生まれ育った。生後間もなく耳が聞こえないことがわかったが、原因は不明だった。静岡のろう学校幼稚部の三年間で「読話（口の動きを読み取る）によって会話をすること」を習得し、「コミュニケーションの手段を得、高校まで地元の一般校で学んだ。

自動車やオートバイのメカニクに興味をもっていた池谷さんは、卒業後、自動車の整備士になりたいと考えていたが、資格取得が難しく、あきらめざるを得なかった。

「母は、私の将来をとても心配して、歯科技工士の道を勧めてくれました。他の聴覚障害者が国家資格を取り、歯科技工士として活躍していることを知り、熱心に勧めたのです。これが歯科技工士になった大きな理由です」

こうして、筑波大学附属聾学校高等部専攻科歯科技工科へ進学し、歯科技工士をめざした。卒業後東京で三年、



顕微鏡を使い、細かい作業を進める



中里さんから指導を受ける池谷さん。「ほとんど、まかせきりです。池谷くんの仕事は一級品です」という中里さん



歯科材料会社の営業担当者との打ち合わせ。「時には筆談もありますが、ほとんど口話です。今までまちがいはありません」と営業マンの話

- J・ユニット (中里義幸代表)
〒134-0003
東京都江戸川区春江町 4-6-10 TSビル2F
TEL 03-3654-1599
- 筑波大学附属聾学校 (歯科技工科)
〒272-8560
千葉県市川市国府台 2-2-1
TEL 070-371-4135 (代) 内線700



製作の前に、患者の歯の色見にでかけることもある。歯科医の指示を受け、「患者さんの満足いく仕事」を心がけている。船堀駅前歯科 (宇田浩一院長) での池谷さん (左)

静岡で一年半、それぞれの技工所で腕を磨き、九七年、念願のJ・ユニットへ入社した。

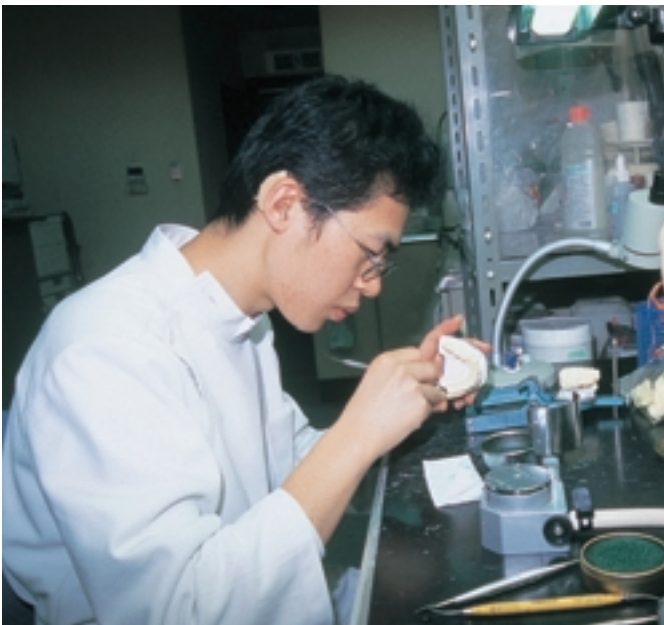
J・ユニットは、歯科技工歴二十年を超える中里義幸さん(四〇歳)が九二年に設立したもので、歯科医・患者や歯科技工業界から、高水準の技工所として高い評価を得ている。

こうして技術の高い技工所で学んだ池谷さんは、国内アビリンピックに出場し、みごと金賞に輝いたわけである。二〇〇〇年八月、チェコのプラハで開催された第五回国際アビリンピックでは、デモンストレーションとして大会に参加した(国際競技種目となっていないため)。

「金賞受賞者として自信をもって、さらに患者さんに喜んでもらえる満足のものをつくらせていきたい」という池谷さん。今日も夜遅くまで、技工所で仕事に励んでいる。



久しぶりに会社を訪問された恩師の三好博文先生（筑波大学附属聾学校歯科技工科主任、左から2人目）と近況を話す



聾学校の後輩、長谷川亮さん（24歳）。昨年11月、J・ユニットに入社して、一人前の歯科技工士をめざしている



長谷川さんの指導は池谷さんの担当



メカ好きな池谷さんは今、オートバイに夢中



98年2月に佳子さんと結婚。アビリンピック出場1週間前に長男、進吾くん（3歳）が生まれた。「子供に金メダルをと頑張ったんです」という子煩悩な池谷さん



聾学校の2年先輩だった妻の佳子さんも歯科技工士。現在、長女の汐織（しおり）ちゃん（7ヵ月）の育児にいそがしい